

令和3年度 さいたま市立宮原中学校 自己評価書

校長 堀口 成之

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 生徒と教職員の信頼関係の構築とともに、自己決定と自己存在感があり、いじめを許さない集団をつくる。 【学年・学級経営の充実】
- (2) 「よい授業」の4つの因子に基づく授業の実施に努め、生徒の基礎基本を確実に定着させる。また、グローバル・スタディの授業においてコミュニケーション力の向上を目指した学習指導を行う。 【学習指導の充実と学習環境の整備】
- (3) 道徳的実践力の育成を通して、互いを尊重し将来の夢や希望をもたせる。さらに『潤いの時間』『人間関係プログラム』の授業において良好な人間関係を構築させる。 【豊かな感性や人間性を育む教育の推進】
- (4) 心のサポート手引きの活用や心に寄り添うことを通して、一人ひとりの良さを見出し、認め、伸ばす指導を推進する。 【積極的な生徒指導と組織的な教育相談の充実】
- (5) 安心・安全・衛生的な学校環境のもと、基礎体力の向上と健康の維持・増進や安全の意識を高める取組を行う。 【健康・安全教育の充実】
- (6) 積極的な学校公開とともに、地域と連携し「地域とともに歩む学校づくり」を推進する。 【開かれた学校づくりの推進】
- (7) 個々の教育支援計画を活用するとともに、特別支援学級における指導の充実及び交流や共同学習を推進する。 【特別支援教育の充実】
- (8) コンプライアンスの意識を高めるとともに、「報告・連絡・相談・見届け」「迅速・誠実・アフターケア」を踏まえた対応をする。 【機動力のある組織づくり】
- (9) 毎月の在校時間の提示と、定期的な定時退勤日の設定により、教職員に勤務時間の縮減や業務改善などの意識を高める。 【ワーク・ライフ・バランス】

2 評価結果について

- (1) いじめ撲滅の取組や学級、学年での体験的活動に取り組むことで、「いじめ等を見逃すことなく、思いやりを持った生活ができている」と94%以上の生徒が肯定的な回答をした。
- (2) 「よい授業」を意識し、指導の工夫・改善に意欲的に取り組んでいる」と、教員の94%が肯定的な回答をし、生徒の92%が「授業が分かりやすく、意欲的に取り組んでいる」と、肯定的な回答をした。
- (3) 「学校生活に何か目標をもって生活している」と、83%の生徒が肯定的な回答をした。
- (4) 毎学期の「心と生活のアンケート」結果の活用とともに、緊急度に応じたケース会議の開催や外部機関との連携を図りながら、事案ごとに丁寧な対応をした。
- (5) 「避難訓練や授業等で、安全面についての意識が高まった」と、生徒の94%以上が肯定的な回答をした。
- (6) 教育活動を積極的に公開していると70%弱の保護者が肯定的な回答をした。
- (7) 外部機関との連携を図るとともに、生徒の実態に応じた体験的な教育活動を積極的に行った。
- (8) 「報告・連絡・相談・見届け」ができていると97%以上の教員が肯定的な回答をした。
- (9) 勤務時間の提示や定時退勤日の設定により、教職員が自らの勤務実態を把握し、働き方を改善する意識が高まるとともに、年間を通して在校時間の縮減がみられた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

引き続き「凡事一流」の徹底、6つの行動目標の定着を図る。さらにコロナ禍においても「新しい生活様式」に基づいて、慎重かつ積極的に教育活動を推進していく。そのために「チーム宮原中」として組織的に取り組み、保護者、地域との連携をより一層強めていく。